# YWWF, Youth World Water Forum（ユース世界水フォーラム）参加報告

藤田久美子*

## 1．概要

案件：世界水フォーラム・ユース会議（H13.6.25～28）参加

目的：2003年3月、日本で開催される第3回世界水フォーラでの土砂災害問題の検討方策および水フォーラムの動向把握

出張者：反町雄二・藤田久美子

出張先：オランダ（ブリシンゲン）

（注）1. アムステルダム・スキポール空港駅から列車で2時間半

2. 人口9万人

参加者：日本：第3回世界水フォーラム事務局・尾田事務局長・横田さん

立命館大学学生2名

今村能之氏（国土交通省よりユネスコに出向中）

その他：オランダ国オレンジ公等総勢420名程度

（注）1. ユース（30歳以下）とシニアはほぼ半々

2. 女性が3～4割程度

3. ヨーロッパ地域：半数以上、アジア、アフリカ、南米、北米など：各10名程度

その他：英語が共通言語であり、英語で意見を即応的に言えることが必要

日本での開催時には同時通訳が必要であるが、デベート時は自力で対応

## 2．会議内容等

### 1）日程別

25日（1日目）

午前中は開会式・午後からは細かく分かれ（10程度）ての会議。著者が参加したセッションは20～40人程度。発表者が説明し、その後質疑。時間的にも突っ込んだ内容を期待できるものではなく、持論紹介程度。また、図表・写真なしの文章だけの発表も複数あり、持論の根拠が全くないものもあった。

土砂災害についてはネパールから1件の発表があったが、内容は実態報告程度（ICIMODとの共同研究でデータの信頼性はある）の水準であった。

発表者は研究途上の世代であり、内容よりは参加し発表することに主眼を置いたものも見られたが、それらを温かく受け入れる雰囲気があった。

26日（2日目）

午前は全体会議。午後は全員が10名程度のグループに分かれ、今後の方針について議論した。

27日（3日目）

午前は前日の結果報告。午後は今後の活動に向けての、アクションチームの紹介等。

28日（4日目）

現地調査

### 2）課題等

多数の参加者に対する適切な運営

2003年水フォーラムでは多数の参加者が想定され、それに対して適切な運営等を行わないと混乱を起こす懸念がある。今回の会議では、学生が献身的に運営を進めており、資料の準備・配付、車の手配・運転、会場設営等を円滑に進めていた。目に見えない部分での組織的・行動的・献身的な活動があったことを十分にうかがわせるものがあった。

地域・国別の特徴

先進国と発展途上国、流域に複数国がある河川と1国内単独の河川等、世界各国にそれぞれの国情があり、同一見解を出すことは困難。一つの結論・統一見解を出すのではなく、各国の事情に配慮した・それぞれが向かっていける方向を結論とするなどが肝要。例えば、世界ダム委員会の発表に対して、発展途上国からはダムの

*（財）砂防・地すべり技術センター企画部

必要性が意見として出されていた。

土砂災害問題を取り上げるに際しては、各国の実状を踏まえた上での組織あるいは目標等を定めることを検討する必要がある。

会議目標

一定の成果を出すためには、課題毎に牽引者がいないと困難である。従って、委員会等を設置して目標を早めに確定し、準備に入らないと手遅れになる懸念がある。

### 3．今後の展開等

2003年会議は数千人となると想定される。

1）水フォーラム（2003年）に向けての土砂関係の会議開催候補案

2003年会議で土砂災害に関する議題を含める場合には、次の様な会議が候補となる。

・閣僚級会議での議題化
・地域会議の総括会議開催
・ユース会議開催
・インターネット会議の総括会議開催

また、会議の結論・評価として次の様なことが想定される。

・インターネットによる国際的なネットワーク作り
・国情・地域の特性を生かした砂防の促進に関する行動計画

2）YWWFを踏まえたWWFに向けての今後の取り組み等

この会議は、国際会議の中でも大規模なものであり、以下の点で新しい試みでもある。

・水関係の専門家だけでなく、経済・産業・行政・メディアなど多様な分野　からの参加。専門家からNGO、一般市民までの参加
・インターネットを使ったセッション
・参加する会議ではなく、一人一人が創る会議（参加者自らが準備をする）
議論から具体的な行動を実現する会議へ
ヴァーチャル・フォーラムに参加出来ない人のために、ボランティアを募り、「水の声」メッセンジャーとして、世界各地の水に関する声を集めてもらい、集められた声をデータベースに登録しヴァーチャル・フォーラムを通じ、様々なテーマの議論に反映させる。
・ヴァーチャル・フォーラムにおいてセッションの主催・参加
水問題解決に向けた取り組み・議論をインターネット上に仮想会議場（ヴァーチャル・フォーラム）として公開し、多くの方に参加していただく。
・8日間で約120のセッションの予定。
参加方法は3通りで、オブザーバー・実際に発言をする参加・会議を主催である。
・海外における地域会議への主催・参加

などである。

第3回WWFにおける会議の形式は、事務局が設定したものに参加するだけではなく、参加者みずから積極的に取り組んで創り上げるものであるため、フォーラム当日だけの参加では不十分であり、今から相当の準備が必要で、地域会議とヴァーチャルフォーラムをリンクさせる運営の方法を検討するなどが求められる。

2003.3 WWFにおいて砂防関連のセッションやヴァーチャルフォーラムを開催・運営するためには、主催者となるべき人選を急ぎ、インタープリベント2002やネパール、インドネシア、中南米等、顕著な土砂災害問題を抱える地域でセッションもしくはヴァーチャルフォーラムを実施することが望ましい。

### 4．その他（参考資料）

1）WWC, World Water Council 世界水会議

1992年のダブリン宣言（Dublin Declaration）に続き、1994年3月オランダで飲料水と環境衛生に関する閣僚会議（the Ministerial and Officials Conference on Drinking Water and Environment Sanitation）が開かれた。

このことは、持続可能な開発に関する委員会（the Commission on Sustainable Development）と国連総会より評価された。

それを受け、国際水資源協会（the International Water Resources Association）は1994年にカイロで開かれたミーティングで、世界水会議（World Water Council）設立準備のための委員会をつくった。この委員会は1995年3月にカナダで開催されたのを始めとし、同年9月にはイタリアで開催された。

この2回の委員会において世界水会議の目的が決定され、国際水政策のシンクタンクとして1996年6月14日にフランス、マルセイユで正式に設立された。

目的：1. 地域／世界レベルでの水危機問題の確認
2. 一般市民への水危機への認知
3. 世界レベルで統合された水資源管理政策のためのフォーラム開催
4. 持続可能な水資源管理政策及び戦略に関する情報提供及び助言
5. 国境をまたがる河川に関する問題への取り組み

なお、当センターの会員加入日は2000年10月20日で、WWC日本会員は別紙のとおりである。

2）WWF, World Water Forum 世界水フォーラム

第1回　世界水フォーラム

1997年3月、モロッコのマラケッシュで開催され、63ヶ国から500人が参加し、「21世紀における世界の水と生命と環境に関するビジョン」の策定を提唱した。

第2回　世界水フォーラム

2000年3月、オランダのハーグで開催され、156ヶ国か5,700人が参加した他、600人のジャーナリストも集まる。80余りにのぼる地域・分野別の分科会の開催され、閣僚級会議には114ヶ国の水関連大臣が出席した。

「世界水ビジョン」の発表があり、世界水フォーラムの取り組みが国連などで大きな反響を呼んだ。

第3回　世界水フォーラム

2003年3月16から23日、京都で開催される。

3）第3回世界水フォーラム土砂委員会の設置

第3回世界水フォーラムに向けて土砂問題についての議論を深め、世界各国における土砂問題に対して接続可能な社会に向けたビジョンを策定するとともに、第3回世界水フォーラムにおいて具体的行動の提言を目的とした「土砂セッション」開催のため「第3回世界水フォーラム土砂委員会」が設置され平成13年9月28日に第1回委員会（委員長国土交通省森砂防部長、副委員長　京都大学　水山教授）が開催された。

## 5．おわりに

当センター企画部国際課では、国際会議のセッション主催の経験のある者がいないため、YWWFに参加した。実際、YWWFはWWFのyouthバージョンでありそれに参加することによりどのようなことがセッション主催又は参加上の問題となりうるのか認識することができた。

2003年の本会議、あるいはその前の地域会議等が開催される際には、今回の経験を生かして参りたい。

写真-1　オランダの典型的な風景

写真-2　ディスカッションの様子－10人程度に別れてディスカッションをした後に、グループの代表が意見を発表

写真-3　コメディアン志望？－真剣なディスカッションの中にも、コメディアンを登場させるオランダ流の会議の進行方法です

写真-4　尾田事務局長のご挨拶